

「塩尻市の財政状況」

(平成22年度
塩尻市決算説明資料より)

塩尻市の起債残高 = 「塩尻市の借金の総額。市民一人当たり約97万円」

(単位：百万円)

区分	H20	H21	H22
塩尻市	66,107	64,765	64,811

市の一般会計や介護保険事業などの特別会計、水道事業などの公営企業会計などすべての会計を含めた借金の総額。

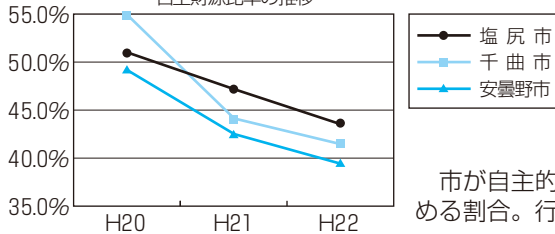
類似団体	H21末人口	備考
塩尻市	67,208人	H17. 4.1合併
千曲市	62,489人	H15. 9.1合併
安曇野市	97,639人	H17.10.1合併

塩尻市の財政状況をわかりやすくするため、4つの指標について県内の類似団体の数値と併せて掲載しています。

類似団体＝国（総務省）が人口及び産業別就業人口の構成比によって分類したもので、県内では千曲市と安曇野市の2市が、塩尻市と同じ分類です。

自主財源比率 = 「収入源を、国や県に頼っていない割合」

自主財源比率の推移



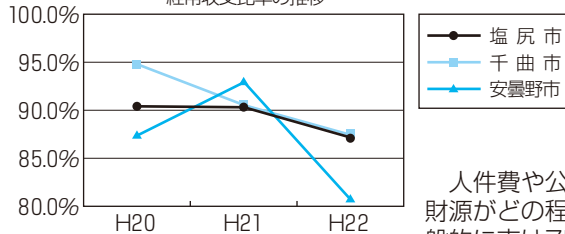
(単位：%)

区分	H20	H21	H22
塩尻市	51.0	47.1	43.6
千曲市	54.7	44.0	41.5
安曇野市	49.2	42.5	39.4

市が自主的に収入し得る財源（地方税・使用料・手数料・財産収入等）の歳入総額に占める割合。行政活動の自主性と安定性を確保し得るかどうかの尺度。

経常収支比率 = 「財政の余裕度合い。数値が少ないほうが、ゆとりがある」

経常収支比率の推移



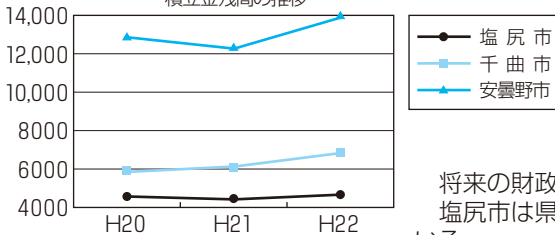
(単位：%)

区分	H20	H21	H22
塩尻市	90.4	90.2	87.1
千曲市	94.8	90.5	87.4
安曇野市	87.3	93.0	80.9

人件費や公債費等の義務的性格の経常経費に、地方税、地方交付税などの経常一般財源がどの程度充当されているかを見ることで、財政の弾力性が判断できる指標。一般的に市は75%程度が妥当とされている。

積立金残高 = 「いざという時のための積立金。市民一人当たり約7万円」

積立金残高の推移



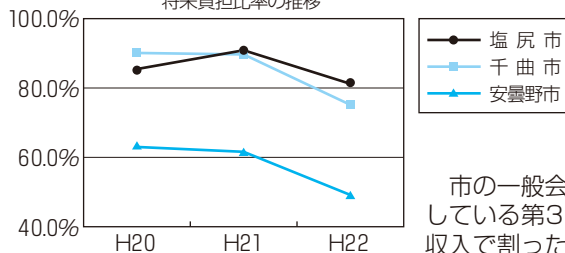
(単位：百万円)

区分	H20	H21	H22
塩尻市	4,591	4,511	4,658
千曲市	5,967	6,114	6,829
安曇野市	12,938	12,383	13,967

将来の財政需要や不測の事態に備えるために積み立てているもの。塩尻市は県内類似団体の中で市民一人当たりの積立金残高は最も少ない額となっている。

将来負担比率 = 「市の年収に対する借金残高の割合」

将来負担比率の推移



(単位：%)

区分	H20	H21	H22
塩尻市	85.0	92.0	81.5
千曲市	91.5	91.2	74.8
安曇野市	63.7	61.2	49.0

市の一般会計等の地方債（借金）残高のほか、水道事業などの公営企業、市が出資している第3セクター等に対する債務を含めた市の実質的な債務を市の標準的な年間収入で割ったもの。

国はこの数値が、350%（借金残高が標準年収の3.5倍の額）を超えるとイエローカードとしています。